

第 2 5 回宇宙開発委員会（臨時会議）

議 事 次 第

1. 日時 昭和 5 0 年 1 2 月 2 日(火)  
午後 3 時～ 5 時
2. 場所 宇宙開発委員会会議室
3. 議題 昭和 5 0 年度 8 ～ 9 月期におけるロケット及び  
人工衛星の打上げ結果の評価について（報告）

（報告者

技術部会第一分科会長 佐 貫 亦 男）

4. 資料

- 委 2 5 - 1 第 2 4 回宇宙開発委員会（定例会議）  
議事要旨
- 委 2 5 - 2 昭和 5 0 年度 8 ～ 9 月期におけるロケット  
及び人工衛星の打上げ結果の評価について  
（報告）
- 委 2 5 - 3 S E S ノート K - N o . 0 6 7  
K - 1 0 c - 5 号機実験報告
- 委 2 5 - 4 技術試験衛星 I 型 / N ロケット 1 号機  
打上げ及び追跡管制報告書

# 委25-1

## 第24回宇宙開発委員会（定例会議）

### 議事要旨

1. 日時 昭和50年10月29日(木)  
午後2時～4時
2. 場所 宇宙開発委員会会議室
3. 議題 学術審議会答申（宇宙科学研究の推進について）  
について
4. 資料  
委24-1 第23回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨  
委24-2 宇宙科学研究の推進について（答申）
5. 出席者
 

宇宙開発委員会委員長代理	山 県 昌 夫
"      委員	網 島 毅
"      "      "	八 藤 東 福
説明者	
文部省学術国際局学術課長	七 田 基 弘
関係省庁職員等	
科学技術庁研究調整局長	伊 原 義 徳
"      "      宇宙開発参事官	園 山 重 道
工業技術院総務部長	杉 浦 博
	(代理：木村)
運輸省大臣官房参事官	沼 越 達 也
	( " : 菊地)
海上保安庁総務部長	兼 松 暁 昭
	( " : 佐藤)

- |                  |          |
|------------------|----------|
| 郵政省電波監理局審議官      | 市 川 澄 夫  |
|                  | ( " : 豊) |
| 文部省学術国際局学術課      | 遠 山 敦 子  |
| 事務局              |          |
| 科学技術庁研究調整局宇宙企画課長 | 上 島 史 郎  |
| "      宇宙国際課長    | 塚 田 真 一  |
| "      宇宙開発課長    | 今 村 宏 他  |

### 6. 議事要旨

#### (1) 前回議事要旨について

第23回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨が確認された。

#### (2) 学術審議会答申（宇宙科学研究の推進について）について

文部省学術国際局の七田基弘学術課長から資料委24-2に基づいて説明が行われたのち、以下の質疑応答が行われた。

山県：人材養成については大学院が中心となつて行つてはいるが、大学院では計画的に養成することがむずかしい。原子力では新しい分野でもあり、人材を量的に確保することを考慮し、学部の段階から人材養成をすることになつた。宇宙では、人材の量より質の問題がポイントになつてはいる。

七田：現在の必要数に合わせて養成しても、将来においてはその必要数が変わつてしまう。宇宙分野での人的な層は原子力分野よりも厚いし、学部の段階から設けると狭くなるので、大学院を中心にして養成した方がよいとの考えである。

網島：文部省はこの答申をどのように扱うつもりなのか。

七田：この答申の内容を具体化するまでにはいろいろ解決すべき問題がある。来年度頃までかけて解決し、出来れば52年度予算要求に反映させてゆきたい。

八藤：宇宙分野において、東大と他の大学との協力関係はこれまでどうなっていたのか。

七田：宇宙理学について東大宇宙航空研究所は他大学のいろいろな要望を公募し、これを評価審議し、決定して実験を行ってきた。

宇宙工学については、主として東大の工学部や生産技術研究所が中心となつている。ただし、最終責任は宇宙研がおつている。

八藤：中枢研究所は官庁研究所や民間研究所との関係において、どのようになるのか。

七田：まだ明確になつていないが、各研究機関との関係は従来より密接なものになると考えられる。

八藤：国際的な研究計画に対しては、それぞれの分野から個別に参加していて、それら相互間の連絡が不足していたように思う。中枢研究所はそのとりまとめ役をするのか。

七田：国際的研究計画への対応の仕方については学術審議会が中心となろうが、実施については南極観測における極地研の場合と同様、中枢研究所が中心となつてとりまとめを行つてゆくことになろう。

山県：評価システムの実施についてはむずかしい問題があると考えられる。

七田：確かにむずかしいが研究者の中にも評価を行う方がよいという意見も出てきている。部内者による評価は従来も行なわれていることであるが、部外者による評価が重要である。

網島：中枢研究所は文部省の直轄研究所とするのか。

七田：それが理想的であるがこれからの問題である。

網島：宇宙の研究を行つている<sup>のは</sup>大学に限られない。この中枢研究所に宇宙開発事業団等を含めて科学研究及び実利用の両面にわたる総合的なものにしていく考えはないか。

七田：人材交流等についてはこれまで以上にやつてゆきたいが、今の段階で実利用にまで強くふみこむには抵抗がある。

八藤：人材養成という角度から中枢研究所への国内留学的なものは考えているか。

七田：重要なこととして考えている。

山県：宇宙からの地球観測という点が強調されているが、そうすると実用衛星との重複がでてくる。

七田：重複を避け全体としてまとまりのあるやり方がとれるよう調整を図つていきたい。